

No.

No.

水が創る未来

八王子市立宮上中学校

一年四組

伊藤 麦

日本での暮らしは、綺麗な水に支えられて

いる。風呂や炊事や洗濯、飲料水などの身近

な水。工業、農業、養業、発電。他にも、さ

まざまな営みが、水が無くては成り立たない。

生物は、約三十五億年前に海水の中で誕生

してから、水の恵みを受けて生きている。つ

まり、水は命の源であり、水が生物の未来を

創っている。誰もが笑って暮らせる未来を創

るためには、綺麗な水が欠かせない。

現在の日本は、蛇口をひねるだけで、いつ

でも安全な水が使えるほど、インフラが整備

されている。それは、あたりまえではない。

世界では、安全な水を飲めずにいる人が、二

十二億人もいる。さらに、不適切な水が原因

で五歳を迎える前に命を落とす子供が、毎日

七百人いるそうだ。綺麗な水は健康をもたら

すが、濁った水は死因となる。現在の水問題

は、見て見ぬふりをしてはいけない、深刻な問題だ。

しかし、世界の水問題を知っている日本人は、わずか四割しかいないことがわかってい
る。日本人は、水があたりまえに得られる環
境によって、水に対する関心が薄れてしまっ
たのだろう。まずは、世界の水問題を多くの
人に知ってもらうことが大切だ。

また、日本も水問題と無関係ではない。今
後、世界人口の増加や地球温暖化によっ
て、必要な水が十分に手に入らなくなる可能性が
ある。私達も、「水は有限」という意識を持
たなくてはいけない。

世界の水問題を、一人一人の心がけて解決
しよう。私達には、出来ることが主に四つあ
る。

「世界の水問題を知る」、「節水」、「水質
汚染への注意」、「ぼ金の協力」だ。

まず、節水について考える。現在の日本で
は、節水に取り組んでいる人が約8割である

そうだ。多くの人が取り組んでいると
だろう。しかし、節水をしている人の
9割以上が、水道料金の削減を目的
としており、水環境の改善を目的と
している人は半数以下なのだ。

次に、水質汚染について考える。日本では、
かつて産業排水での水質汚染が問題
になっていた。しかし、現在では生
活排水が問題となっている。つま
り、一人一人が少しずつ水の使
い方を改善すれば、水環境を大
きく改善できる。

るはずだ。生活雑排水の中で、も
っとも大きな割合を占めているの
は、台所で使用する水である。ま
あは、台所での水の使い方を改善
すると良いだろう。たとえば、食
器に付いた油を拭いてから洗った
り、排水口に水切り袋を着けるな
どの工夫ができる。

他にも、ユニセフなどの団体に
ば金を出して、厳しい環境で生き
る人々を応援するなどの方法があ
る。

私達には、できることがたくさん
ある。19世紀

No.

No.

果を知り、小さな工夫でも実践することが大切だ。

水は、命の源だ。綺麗な水を世界中に。多くの人の小さな心が集まれば、水不足や汚染された水を改善することが出来る。

たくさんの小さな思いやりが、綺麗な水と笑顔であふれた地球の未来を創るにちがいない。